



第4学年外国語活動
「Let's make miso soup! ALT におすすめのみそ汁を紹介しよう」
教材【 Let's Try! Unit7 "What do you want?" 】



Point
最適な
言語活動の
設定

外国語活動及び外国語科の目標には、小学校から高等学校の全てにおいて「言語活動を通して資質・能力を育成する」と明記されています。
東山小学校では、「本単元における目標達成に向けて、どのような言語活動を設定すればよいのか」ということの検討を重ねてきました。

Point
ゴールの姿の
明確化

資質・能力を育成するためには、**授業のゴールを明確**にもつことが大切です。
東山小学校では、学習指導案に**子供のゴールの姿として「表現例」を示し、ゴールに向けた指導の工夫の仕方**を明らかにしながら授業づくりを行いました。

言語活動とは

実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より

言語活動について検討すること

- ☑児童が**興味・関心**をもつ身近な題材か。
- ☑**相手意識**をもつことができるか。
- ☑聞いたり話したりする**必然性**があるか。
- ☑より**本物**に近いか。
- ☑**コミュニケーションの楽しさや意義**を感じられるか。

つまり

「目的・場面・状況」を設定し、本気で言語活動に取り組ませる

本単元の言語活動

和食に興味があり、日頃からALT仲間に料理を振る舞っているけれど、みそ汁のレポーターが少なくて困っているALTのマデリン先生に、おすすめのみそ汁を紹介する。

マデリン先生は、みそ汁のレポーターを増やしたいのか
ぼくたちが教えてあげなくちゃ!

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

自分の好き嫌いや、欲しいものなどについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。

次に各時間のゴールが単元ゴールにつながっているか
①本時の目標を達成した姿として適切か
②表現の高まりが見られるか

① A.L.T.におすすめのみそ汁について、相手に伝えるように工夫しながら、自分のオリジナルみそ汁について紹介する。
【Warm-Up】 Chant: "What do you want?"
○リズムよくチャントを歌う。
○友だちが選んだ食材に替えて、リズムよく歌う。

【Activity 1】
・デモンストレーションを見て、交流する内容を学ぶ。
・ペアで自分のオリジナルみそ汁を紹介し合い、交流する。
・中間評価を受ける。
・ペアを替え、交流する。

② 野菜や果物などの食材について、I want ~などをいう、話すことに慣れ親しんでいる。(知)
○A.L.T.におすすめのみそ汁について、相手に伝えるように工夫しながら、自分のオリジナルみそ汁について話している。(思)
○A.L.T.におすすめのみそ汁について、相手に伝えるように工夫しながら、自分のオリジナルみそ汁について話そうと試みる。(能)
(行)観察・振り返りカード
(話し手の例)
This is my miso soup.
I want ~.
I like ~.
It's good(delicious).
Please try!
(聞き手の例)
Why?
Do you like ~?

まずは 単元目標を達成した姿として適切か
次に 各時間のゴールが単元ゴールにつながっているか
①本時の目標を達成した姿として適切か
②表現の高まりが見られるか

◆A.L.T.におすすめのみそ汁を紹介する
【Warm-Up】 Chant: "What do you want?"
○リズムよくチャントを歌う。
○友だちが選んだ食材に替えて、リズムよく歌う。

5 【Activity 1】
・A.L.T.におすすめのみそ汁を紹介する。

◎第4時と合わせて行う。
評価規準及び評価方法は、第4時と同じ。
(発表の例)
This is my miso soup.
This is for you.
I want ~.
It's good(delicious).
Do you like my miso soup?
Please try!

子供の表現を示し、評価や指導につなげる



文部科学省初等中等教育局
直山 木綿子 視学官より指導・助言

～言語活動を「通して」授業をする～

小学校の外国語活動や外国語科の授業は、ゲームではなく、言語活動を意識して行われるようになってきました。
次に大事なことは、授業を「言語活動を通して」行うことです。

「中間指導」で指導する3つのポイント

言語活動の過程を中心に据え、言語活動と指導を繰り返して授業が進んだことが、とても良かったです。

本時では、目的に向かって、3回言語活動を行い、その間に2回の中間指導を行いました。「言語活動を通して」とは、言語活動を繰り返す中で、次の3つのポイントで中間指導を行うことにより「目的・場面・状況」を基に「問い」を持たせたり、「見方・考え方」を引き出したりし、言語活動の質を高めていくことです。

1 内容面

★目的に合うような内容になっているかを考えさせること
・子供は、「何のために、誰に向けて」を基に、内容を詳しく変えようとする。

★言いたかったけれど、言えなかったことは、子供に考えさせること
・知っている言葉で何とか言い換えさせるようにする。

2 言語面

★不確かな英語に慣れ親しませることがないようにすること
・「こんな英語が聞こえてきたけど良かった?」と考えさせる。
・より良い英語を言わせて、練習する。

3 伝え方

★スマイル・ジェスチャー・アイコンタクト・クリアボイス・リアクションは、4年生の前半でクリアしておくこと
・「外国語科」では、これらができているものとして行うので、5年生への接続時期となるこの時期には、内容面や言語面に重点をおいて指導する。

何のために、ALTにみそ汁を紹介しなければいけないの?

言語活動の目的・場面・状況の設定と確認

～1時間目が単元の行く末を左右する!～

★設定した言語活動の目的・場面・状況を子供と共有することが大切であり、**単元の1時間目に子供達に理解させる**ことで、子供は「伝えたいな。どう伝えようかな?」と思考が働くようになります。

事前に指導案を読んだ時に「今日の授業はとっても良いな!」と、期待していました。

- 設定した言語活動に**必然性**をもたせることで、主体的な学びにつながります。
本単元であれば、マデリン先生が「Can you help me!」と言ったことで、「マデリン先生の力になりたいな。」
「高知には、たくさんのおいしいみそ汁があることを伝えてあげよう。」
「高知っていいところだなと思ってもらおう。」
と、子供達のプライドがかき立てられます。
- 相手や目的を毎時間確認し、常に意識させて取り組むことも大切です。

Do you cook miso soup?

2つしか知らないの? みんなは、もっと知ってる?

I only have two recipes.

Really? Can you help me?



子供自身が気付く授業

45分間の授業の中で、言語活動にたっぷり時間をかけることが大切です。

デモンストレーションは、与えすぎずシンプルにし、いろんな友達と活動する中で、様々な相手のリアクションをもとに、子供自身が「○○が足りない」と気付く授業展開をしていきましょう。

参観者の声(抜粋)

- 英語をどんどん使っていくことの大切さを子供達に伝えたい。
- 中間指導の内容を明確にして行うことや、中間指導を複数回行うことが、資質・能力の育成に効果が高いと思ったので、すぐ自校で伝えたい。
- 評価を繰り返しながら言語活動を高めていくイメージがより明確になった。
- 目的意識・相手意識を大切に中間指導にも力を入れて取り組みたい。

